

# Interview 診療科紹介 眼科

先進医療認定施設に認定され、高度な手術と専門的な治療に取り組む眼科について、中井慶部長にお話をうかがいました。

●当院の眼科の特色は？

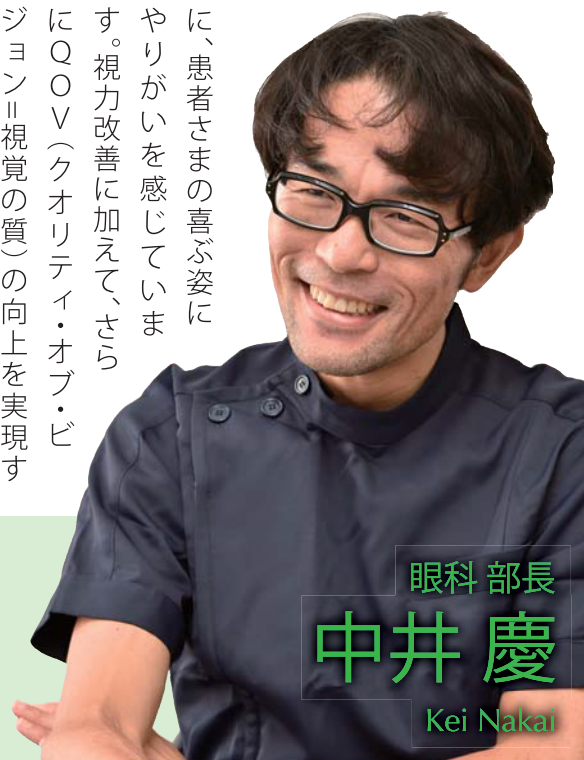
白内障、緑内障などの通常診療はもちろん、大阪大学眼科との協力でも難易度の高い網膜硝子体手術にも対応しています。また私の専門であるぶどう膜炎疾患の治療にも力を入れています。ぶどう膜炎は、専門医が少なく、どの病院に行けば専門的に診てもらえるかがわからず困っている患者さまが多いと思います。当院では専門医がしっかりと病気の原因を突き止めたうえで治療を行っています。また関心が高まっている加齢性黄斑変性性に関しては専門クリニックを設け、硝子体注射をはじめとした治療を積極的に行っています。

●ぶどう膜炎とはどんな病気ですか？

眼球の中に炎症が生じる病気で、場合によっては失明する可能性もあります。ぶどう膜炎疾患にはベーチェット病、原田病、サルコイドーシスなどがあり、免疫異常によって生じます。全身性の疾患ですので、ベーチェット病なら膠原病内科、サルコイドーシスなら呼吸器内科、など他の診療科と協力しながら治療に取り組みます。また生命に関わる悪性リンパ腫との鑑別が非常に重要であるため、正確な診断のためには専門的な知識が必要になります。

●先進医療認定施設に認定されましたが他の病院の眼科とどう違うのですか？

本年7月1日、当院は多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建手術（白内障手術）において先進医療認定施設に認定されました。従来の白内障手術で用いるレンズ（単焦点レンズ）は、手元が遠くのどちらかに焦点をあわせるものです。しかし多焦点（遠近両用）レンズを用いることで遠くから近くまで見えるようになります。患者さまからは「よく見えるようになって嬉しい」という声をたくさんいただき、改めて目が見えることの重要性を確認すると同時に、患者さまの喜ぶ姿にやりがいを感じています。視力改善に加えて、さらにQOV（クオリティ・オブ・ビジョン＝視覚の質）の向上を実現するため、手術技術を切磋琢磨し、最新鋭の手術機器を導入し、より安全な手術を行うよう努めています。



眼科部長  
中井 慶  
Kei Nakai

さらに当院は、小児眼科専門医が診察を行っており、子どもの斜視、弱視などの治療にも対応できます。ぶどう膜炎と同じく小児眼科は専門医が少なく、病院探しで困っている患者さまにとって大きな心よりどころとなることができれば幸いです。そうして頼って来られた患者さまの話をよく聞き、一人ひとりに誠心誠意対応することで、心地よく利用してもらえ眼科でありたいと願っています。

※当院を受診の際は、かかりつけ医を通じて当院「地域医療連携センター」でご予約をお取りください。

平成10年 大阪大学医学部 卒業  
日本眼科学会専門医・指導医  
日本眼炎症学会 会員  
国際眼炎症学会 会員